

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771400243		
法人名	(株)ひまわり		
事業所名	ひまわりの家		
所在地	高松市香川町大野901-1		
自己評価作成日	H23.9.8	評価結果市町受理日	平成24年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosyoCd=3771400243-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成25年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣近所の方がボランティア組織を作り、日替わりで顔を見せてくれ、移動に手をかしてくれたり、レクリエーションに関わってくれたりと交流が図れています。ボランティアの人たち、入居者、職員が協力して取り組んでいる家庭菜園、「ひまわり農園」で収穫した果物や野菜などを使って作るおやつは、入居者の楽しみであります。日々のおやつ、おやつバイキング、ひまわり喫茶のデザート、入居者の誕生日ケーキは職員の手作りです。併設されている多機能ホームひまわりとも連携が取れ、通いの利用者、入居者の交流の場として、それぞれが企画したイベントに相互訪問して、日々の生活に変化をもたらす工夫を取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

医療機関が核となり、関連施設として介護老人保健施設、有料老人ホームがある。グループホームと小規模多機能は一体的に運営され、医療機関の24時間体制のバックアップがあり、職員・家族ともに安心感をもっている。地域の一員として、ともに楽しく生きていくとの考えから、地域とのつながりを大切にしている。毎日の訪問、散歩中の人の見守り、外出時の手伝い等、何気ない日常生活に地域の人との協力が得られている。食事は栄養面だけでなく、日々の楽しみとなるように、カフェを開いたり、外食したり、一人ひとりの誕生会を開催するなど、工夫を凝らしている。管理者は現場への理解が深く、職員の意見は重用し、速やかに運営に反映させるため、職員のモチベーションも高い。また、後継者の育成に力を入れており、職員は各自の役割を認識して、生き生きと仕事に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	ひまわりの家(1号棟)	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義と役割を理解した上で独自の理念を作っている。家庭的な雰囲気の中で、理念に基づいた支援が常に実践できるように毎日の朝礼で復唱したり、職員や訪問者に分かりやすいように提示している。	職員は、理念は日々のケアの拠り所となることを自覚し、見直しを行ったり、グループ全体で共有できる新たな理念を検討するなど、常に意識している。事業所内では、理念を毎日唱和し、目につくところにも掲示し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の公園の草抜きを職員とともにするなど、地域の一員としての繋がりを大切にしている。近隣のボランティアさんの協力で、ひまわり農園で野菜や果物を作っている。そこで収穫されたものを近隣の方にもおすそ分け等して、交流が図れている。	管理者は地域への思いが強く、地域とともにあり、その一員であることを当たり前のこととしている。事業所は自治会にも加入し、してもらっただけでなく、自分達ができる清掃や草取りは自発的に行い、近隣から感謝されている。地域の行事でも、積極的に役割を果たし、住民の1人として参加するなど、日常的な付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の生活で困りごとのある方の情報を地域ボランティアの方から伺い、協力できることで対応している。地域包括支援センターから講師に来ていただき、認知症サポーターについて学ぶ機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議で出された意見、提言は職員に周知し、サービス向上に活かしている。会議には職員代表として順次参加して、そこで話し合われていることがより身近に感じ、共有していけるようにしている。	会議は定期的に開かれ、事業所からは利用者の様子や活動報告、市・地域からは情報提供を受けている。職員が順番に出席し、会議の意義に気づき、会議の内容が運営や日々のケアに活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者とも行き来する機会があり、相談に乗ってもらったり助言をいただき、利用者のニーズに答えていけるように連携を取っている。	地域包括支援センターや市の担当者とは良好な関係が築けている。日頃から、事あるごとに報告したり相談しており、連携は密にとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の職員勉強会には、「身体拘束について」を取り入れ、身体拘束とは…を元に弊害を認識し、周知徹底している。玄関には施錠しておらず自由に入出入りが可能になっている。	拘束がもたらす弊害を理解し、拘束しないケアを目指している。体位保持が難しかったり、危険が伴う時は、職員会議で話し合い、家族の了解のもと、一時的にベルト等を使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を持ち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がある時にはぜひ参加していきたい。今後、必要となる利用者が出た時に備えて、その必要性を見抜く力を養い、常に対応できるように体制を整えておきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書をもとに家族と一緒に目を通し、声を出して読み上げている。一つ一つ丁寧に説明した上で、疑問点や質問にその都度答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族などの意見、要望は直接出してもらうように働きかけしている。日頃から「何でも言いやすい」雰囲気を心がけている。出された意見や要望には速やかに反映させている。家族から得られた情報は、直ぐケアに活かせるように取り組んでいる。	年1回は家族への周知会を催している。面会時や行事の時など、直接話す機会があるときに意見や要望を聞いている。意見・要望があれば速やかに応えて、運営に反映させている。「毎日買い物に行きたい」「毎日散歩に行きたい」などの要望にもスタッフの努力と地域の協力で実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はケアサービス向上ととらえ、積極的に受け止めて運営に反映するようにしている。出された提案・意見は吸い上げ、より良い運営に活かしている。何でも言いやすい関係ができています。	管理者は現場の経験もあり、話しやすい関係ができています。現場では職員の判断・裁量に任せることも多く、同志としての信頼関係ができています。職員の意見・提案は前向きにとらえ、速やかに吸い上げ、運営に反映させています。	グループ全体で取り組む各種の専門委員会が最近発足したので、会を活発化させ、効果が上がる組織に育つことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にあり、勤務の継続につながっている。向上心を持って働けるような配慮がなされている。子育て中の職員の応援には得に配慮している。また、資格取得に向けた支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は職員に情報を出し参加する機会を作っている。参加しやすいように費用面や勤務表等で配慮している。参加者は研修報告の提出により、再度研修内容の理解を深めるようにしている。また、月1回は職員会を兼ねた勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を持ち、お互いの良い点を取り入れるなど、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネージャーや病院関係者から情報を収集した上で、本人の思い、不安要因を傾聴し受け止め、戸惑うことなくホーム生活が送れるように支援していくことで、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるかどうか不安に思っている想いを受け止め、誠心誠意サポートさせていただくことを伝え、安心が得られるように何事も隠さず、相談しながら対応して、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず一番必要としている支援を理解し、戸惑うことなくホーム生活が送れるように、望ましいと思われる支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護という視点で日常生活すべてにおいて、利用者個々の得意分野で力を出してもらっている。入居者から学ぶことも多く、「共に過ごし、学び支えあう」関係作りが築けている。「入居者から得られた知恵」が、家族を持つ職員の力にもなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出、行事参加などで家族に関わっていただける機会を作るとともに、面会の少ない家族には、ひまわり便りの送付で入居者の状況を報告している。また、電話を入れ、直接話をして関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、親類の方の訪問がある。本人との付き合いが続けられるように温かく迎え入れ、馴染みの関係が途切れないように支援している。居室に案内し、お茶等を用意し、ゆっくりした時間が過ごせるように配慮している。	親類の人や知人が訪ねてきた時は、楽しい時間が過ごせるよう配慮している。希望献立の日に馴染みの食堂に出かけたり、法事や冠婚葬祭への出席を支援したり、これまでの関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士の関係性に配慮して、無理なく交流が保てるように席にも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にお見舞いに行き、利用者との関係を断ち切らないように努めている。家族の相談にも乗っている。また、在宅復帰がかなった利用者にも、その後の様子を伺いに自宅に訪問し、関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意向の出てこない入居者についても本人の心の奥の思いを探り、何かしてあげられることはないか意見を出し合っている。また、入居者の生活習慣の継続には家族の話し合いのもと、本人の意向に沿った対応をしている。	毎日の生活の中で希望や意向を聞き出せるよう努めている。意向の把握が難しい人は、その人の立場に立ち、心の中の思いを押し量ったり、家族との話し合いや職員間の意見交換で深め、意向に沿った支援になるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴を家族からの聞き取りで把握に努め、入居者の生活に活かせる支援ができるように努めている。「私の暮らし情報」に要約して整理しており、それをもとにコミュニケーションを図ったり、生活支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で個々の過ごし方や、有する能力、心身の状態等、今の状況を総合的に把握するように努めている。朝、夕の申し送りや情報を共有している。変化があれば、その都度話し合い、対応について協議し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にあつた計画作成に努めている。定期的に話し合い、それぞれの見方、考え方の意見交換を行い、本人の意向、家族の思いを取り入れた計画を作成している。大きな変化があるなしに関わらず、3か月ごとに計画書を作成している。	本人、家族、スタッフで話し合い、希望や意見を反映したプランを作成している。必ず3か月ごとに見直しているが、状況に変化があればその都度変更し、現状に即したプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々のケース記録を充実させ、その内容(情報)を共有することで、ケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間や緊急時の急変時には協力病院による柔軟な支援体制がある。緊急時の通院、送迎などは行い、家族の状況等に応じて個々に対応している。また、併設の多機能ホームのレクリエーションに参加することができるなど、多機能性を活かした支援ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。近隣の保育園との交流も継続している。また、地域の防災に職員代表者が進んで参加しており、協働体制に関わっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得している医療機関での診療や往診が適切にされており、受診時の送迎援助も行っている。	現在の利用者は協力医療機関である谷本医院をかかりつけ医としている。医院では24時間体制がとられ、受診・往診、看護師の訪問も定期的になされている。他科の受診も職員が支援しているが、家族が支援する時もある。受診結果は看護師に報告され確認されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日常的な医療面での気づきを、早い段階で看護職員に伝えることで早期発見につなげている。看護職員を通して、支援医療機関には毎日FAXで心身の状況の報告ができています。支援医療機関からは定期的に看護師の訪問があり、個々の入居者の健康状態の把握に努めている。状態により適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人に関する情報の提供やケアについて添書を送付し、安心して治療を受けられるように関係づくりを行っている。早期に退院できるように医師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、支援医療機関や施設責任者、家族などを交えて話し合いの機会を設け、希望に沿えるように体制を整えており、方針を共有している。過去にも数例の実績がある。	入居時に終末期のあり方について家族と話し合い、意向を確認している。医師の判断により、その時が近づいたら再度、家族、医師、スタッフで十分に話し合い、家族の思いに沿うよう努力している。希望があれば看取りを実施している。協力医院での看取りの実績もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、急変時の対応マニュアルを整備している。冷静な判断のもと、確実に適切な行動が取れるために、マニュアルに沿った対応ができるように、実践が身につくよう定期的に実施訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行っている。訓練には地域の人々や他の事業所の協力が得られている。	消防署立ち会いの下、火災訓練を年2回実施している。グループ内の応援体制が組織化されており、他の事業所からの応援や地域の人々の参加もある。校区の防災訓練にも職員を派遣し、訓練を積んでいる。災害に備え、飲料水、非常食、燃料、備品を備蓄している。生活水は井戸水で対応する。	災害はいつ、どの時間帯に起こるか予測ができないため、夜間を想定した訓練や夜間訓練の実施が望まれる。職員は近隣に多く住み、地域の人々の協力も見込めるので、現実的な体制作りを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格尊重やプライバシーを損ねない対応を徹底するように心がけている。職員同士で注意し、声をかけあっている。居室はノックした上で、入居者の了解を得てから入室する等、周知している。	利用者の人格を尊重し、丁寧な対応を心がけている。プライバシーの確保については、入浴時にカーテンを利用して個人の空間を確保するなど、ガイドラインを設け、職員には研修を実施し周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が決定できるように選択肢を提示し声かけしている。外出希望にも沿えるように支援している。意思疎通が困難な方については、表情などを読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズム作りのため、基本的な1日の流れや日課は作っているが、本人の生活ペースを尊重し、その日の体調を見計らい、その動きや状態に合わせた関わりで、希望に沿って支援している。行事参加についても本人の意向を伺い、尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望して行く理・美容院が特にない方については、ホームに来てくれる美容師を利用している。低料金でボランティア的な面が見られる方で馴染みの関係にあり、髪を整えてもらいながら会話を弾んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループ内の事業所の厨房から配食されているが、月2回ある希望献立の日は、外食、テイクアウト、希望したものを使って食べる等、食べる楽しみを取り入れている。	栄養士が献立を立て一括調理され、各ユニットで配膳している。食事中に栄養士が各ユニットに出向き、献立、材料、調理法などをわかりやすく説明し、みんなが同じ話題で盛り上がり、自然と食事が楽しめるよう工夫している。希望献立の日は利用者の希望を第一にし、多彩な食事をしている。必ず月1回は、3ユニットと併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同でカフェを開いている。菜園で収穫された材料を使って、豊富な種類の手作りケーキが提供され、利用者はケーキバイキングを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成している。全員の食事摂取量や水分は、毎食チェック表に記入している。特に水分量の確保には工夫を凝らし、好みに合った飲み物やトロミを付ける等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。個々の入居者の口腔状態に合わせたケアを、有資格者の職員の指導のもと行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が困難な方もおられる。入居者の状況に応じた排泄ケアとなっている。訴えない入居者には、時間誘導や挙動を察知して誘導している。	利用者は、自立している人からおむつを使用している人まで自立度はさまざまである。さりげない声かけや時間で誘導したり、必要な人には排泄チェック表を付けるなど、一人ひとりに合った排泄ケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、繊維質の多い食材や乳製品を利用した食事が提供されている。便通に問題のある入居者には排便状況を把握して、必要に応じて看護師に連絡し、適切な対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特殊入浴は週2回行っている。他には手足浴も取り入れている。入浴を拒否することであっても、体調に問題なければ再度時間をおいてから声かけしている。本人の「入りたい」タイミングに合致するように時間差で声かけして、諦めないことを心がけている。	特殊浴・大浴場は共用のため、回数や時間的に制約があるが、普通浴は各ユニットにあり、いつでも入れるようにしている。入りたい時に入ることが可能で、毎日入っている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを家族より聞き、参考にして。体調や本人の希望によって、日中少し横になったり休息できる体制を整えている。居室に行かずとも横になれるソファや、和室に誘導することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、それを活かせるようにホームの生活の中でそれぞれが好きなこと、得意なこと役割を持ってもらっている。感謝の言葉を伝えることで、自信回復につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は周辺の散歩に出かけている。また、買い物、ドライブ、喫茶店、外出に出かけることもある。春、秋にはホーム全体の外出も計画して、家族にも参加していた。	毎日、1人でひまわり農園や近所のスーパーへ買い物に出かけている人もいます。気になる方はネームプレートをつけ、近隣の人の協力で希望が叶えられている。ちょっとした買い物や外出にもボランティアが協力を申し出てくれており、一人ひとりの希望に応じた支援ができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者はおらず、ホーム側で管理しているが、買い物に行ったときは支払い時には自分から払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に携帯電話を持って来ておられる方もおり、コール時には直接会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小規模多機能ホームとの間には広い中庭があり、季節感が得られるように工夫されている。お互いの交流となるゆったりとした空間になっている。ホールや廊下には絵や作品を飾り、落ち着いた空間を作り出している。季節に応じて作品を提示している。	玄関先にはテーブルやベンチが置かれ、中庭には季節の花が咲き、花を楽しむ季節を感じる空間になっている。ホールは明るく落ち着いた雰囲気、壁や廊下には季節に合った作品が掲示されて、温かみのある場所になっている。和室は他のユニットの利用者との交流スペースとなっている。	

ひまわりの家(1号棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要な時は和室や居室、中庭を利用している。ゆっくり休めるようにソファを設置したり、クッションを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、在宅時での居室の再現を家族に協力依頼している。使い慣れた家具や飾り物を持ち込み、本人の安心できる居場所作りができています。	居室には利用者のそれぞれの思いが活かされ、自宅にあった馴染みの物が持ち込まれている。壁には行事の時や外出時の写真が飾られ、安心して落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように大きな字の表示があり、自分で行けるよう分かりやすくしている。廊下や浴室、トイレには手すりがある。危険がないように不要なものは放置せず、安全に移動ができるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	ひまわりの家(2号棟)			

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義と役割を理解した上で独自の理念を作っている。家庭的な雰囲気の中で、理念に基づいた支援が常に行えるように毎日の朝礼で復唱したり、職員や訪問者に分かりやすいように提示している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の公園の草抜きを職員とともにやるなど、地域の一員としての繋がりを大切にしている。近隣のボランティアさんの協力で、ひまわり農園で野菜や果物を作っている。そこで収穫されたものを近隣の方にもおすそ分け等して、交流が図れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の生活で困りごとのある方の情報を地域ボランティアの方から伺い、協力できることで対応している。地域包括支援センターから講師に来ていただき、認知症サポーターについて学ぶ機会を設けた。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議で出された意見、提言は職員に周知し、サービス向上に活かしている。会議には職員代表として順次参加して、そこで話し合われていることがより身近に感じ、共有していけるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者とも行き来する機会があり、相談に乗ってもらったり助言をいただき、利用者のニーズに答えていけるように連携を取っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の職員勉強会には、「身体拘束について」を取り入れ、身体拘束とは…を元に弊害を認識し、周知徹底している。玄関には施錠しておらず自由に出入りが可能になっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を持ち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がある時にはぜひ参加していきたい。今後、必要となる利用者が出た時に備えて、その必要性を見抜く力を養い、常に対応できるように体制を整えておきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書をもとに家族と一緒に目を通し、声を出して読み上げている。一つ一つ丁寧に説明した上で、疑問点や質問にその都度答えるようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族などの意見、要望は直接出してもらうように働きかけしている。日頃から「何でも言いやすい」雰囲気心がけている。出された意見や要望には速やかに反映させている。家族から得られた情報は、直ぐケアに活かせるように取り組んでいる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はケアサービス向上ととらえ、積極的に受け止めて運営に反映するようにしている。出された提案・意見は吸い上げ、より良い運営に活かしている。何でも言いやすい関係ができています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にあり、勤務の継続につながっている。向上心を持って働けるような配慮がなされている。子育て中の職員の応援には得に配慮している。また、資格取得に向けた支援も行っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は職員に情報を出し参加する機会を作っている。参加しやすいように費用面や勤務表等で配慮している。参加者は研修報告の提出により、再度研修内容の理解を深めるようにしている。また、月1回は職員会を兼ねた勉強会を開催している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を持ち、お互いの良い点を取り入れるなど、サービスの質の向上に努めている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネージャーや病院関係者から情報を収集した上で、本人の思い、不安要因を傾聴し受け止め、戸惑うことなくホーム生活が送れるように支援していくことで、信頼関係が築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるかどうか不安に思っている想いを受け止め、誠心誠意サポートさせていただくことを伝え、安心が得られるように何事も隠さず、相談しながら対応して、信頼関係作りに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず一番必要としている支援を理解し、戸惑うことなくホーム生活が送れるように、望ましいと思われる支援を提供できるように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護という視点で日常生活すべてにおいて、利用者個々の得意分野で力を出してもらっている。入居者から学ぶことも多く、「共に過ごし、学び支えあう」関係作りが築けている。「入居者から得られた知恵」が、家族を持つ職員の力にもなっている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出、行事参加などで家族に関わっていただける機会を作るとともに、面会の少ない家族には、ひまわり便りの送付で入居者の状況を報告している。また、電話を入れ、直接話をして関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、親類の方の訪問がある。本人との付き合いが続けられるように温かく迎え入れ、馴染みの関係が途切れないように支援している。居室に案内し、お茶等を用意し、ゆっくりした時間が過ごせるように配慮している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気の合う入居者同士の関係性に配慮し て、無理なく交流が保てるように席にも気を 配っている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にお見舞いに行き、利用者との関 係を断ち切らないように努めている。家族の 相談にも乗っている。また、在宅復帰が かなった利用者にも、その後の様子を伺いに 自宅に訪問し、関係を続けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者一人ひとりの思いや希望、意向の 把握に努めている。意向の出てこない入居 者についても本人の心の奥の思いを探り、 何かしてあげれることはないか意見を出し 合っている。また、入居者の生活習慣の継 続には家族の話し合いのもと、本人の意向 に沿った対応をしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時の個々の情報、生活歴を家族から の聞き取りで把握に努め、入居者の生活に 活かせる支援ができるように努めている。 「私の暮らし情報」に要約して整理しており、 それをもとにコミュニケーションを図ったり、 生活支援に活かしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で個々の過ごし方や、有す る能力、心身の状態等、今の状況を総合的 に把握するように努めている。朝、夕の申し 送りで情報を共有している。変化があれば、 その都度話し合い、対応について協議し、ケ アに活かしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	個々にあった計画作成に努めている。定 期的に話し合い、それぞれの見方、考え方 の意見交換を行い、本人の意向、家族の思 いを取り入れた計画を作成している。大きな 変化があるなしに関わらず、3か月ごとに計 画書を作成している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々のケース記録を充実させ、その内容(情報)を共有することで、ケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間や緊急時の急変時には協力病院による柔軟な支援体制がある。緊急時の通院、送迎などは行い、家族の状況等に応じて個々に対応している。また、併設の多機能ホームのレクリエーションに参加することができるなど、多機能性を活かした支援ができています。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。近隣の保育園との交流も継続している。また、地域の防災に職員代表者が進んで参加しており、協働体制に関わっている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得している医療機関での診療や往診が適切にされており、受診時の送迎援助も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日常的な医療面での気づきを、早い段階で看護職員に伝えることで早期発見につなげている。看護職員を通して、支援医療機関には毎日FAXで心身の状況の報告ができています。支援医療機関からは定期的に看護師の訪問があり、個々の入居者の健康状態の把握に努めている。状態により適切な受診ができるように支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人に関する情報の提供やケアについて添書を送付し、安心して治療が受けられるように関係づくりを行っている。早期に退院できるように医師との連携に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、支援医療機関や施設責任者、家族などを交えて話し合いの機会を設け、希望に沿えるように体制を整えており、方針を共有している。過去にも数例の実績がある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、急変時の対応マニュアルを整備している。冷静な判断のもと、確実に適切な行動が取れるために、マニュアルに沿った対応ができるように、実践が身につくよう定期的に実施訓練している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行っている。訓練には地域の人々や他の事業所の協力が得られている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格尊重やプライバシーを損なわない対応を徹底するように心がけている。職員同士で注意し、声をかけあっている。居室はノックした上で、入居者の了解を得てから入室する等、周知している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望献立の日があるが、なかなか言葉が出ない人にはいろいろな食べ物を提示し、選んでいただけるように、希望が言えるよう働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩が日課」の入居者の希望を受け入れ、家族と十分な話し合いの上、自由に散歩に出かけられるように支援している。不測の事態に備えて、連絡してもらえるようにネームプレートを持たせている。近隣の方にも見かけたら声をかけたり、見守っていただけるように協力を依頼している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容に関してはホームに来てくれる美容師を利用している。ボランティア的な面もあり、皆が気に入っており、この日を楽しみにしている。自分の行きたい美容院に出かける方もいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩に出かけた入居者が収穫してくる、果物を利用したおやつ作りを一緒にしたり、おやつや食事の準備・片づけをしている。一人ひとりのお誕生日は手作りのパースデーケーキ(職員と入居者の共同作業)を楽しみにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っておりバランスが取れた食事内容が提供できている。好き嫌いの把握に努め、献立内容にとらわれず、食べられる量が増えるように、盛り付け方などに工夫を凝らしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが習慣づいている方もおられる。時々はきちんと磨けているか、臭いがしていないか、本人の了解を得たうえでチェックしている。本人の力に応じて声かけしたり、一部介助、全介助で口腔ケアをしている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主的にトイレに行っている方が多いが、用を足す時間が重なることで支障が出ることもあり、空トイレの方へ誘導を行っている。訴えない入居者には時間誘導や、挙動を職員が察知して誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居以前から便秘傾向の方がおられる。運動や散歩を促し、腹部マッサージも取り入れている。時に緩下剤を併用することで対応し、飲食物を工夫して摂取することで予防に努めている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	普通浴は週3回は確保しており、希望が出た時は可能な時間帯であれば対応している。毎日入るのを希望している方もおられる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	薬に頼ることなく眠れるように、日中の活動を活発にしている。年齢、体調、希望を考慮し、ゆっくり休息がとれるようにしている。夜間は十分睡眠が取れており、昼夜逆転などの問題はほとんど見られていない。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みができています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩を日課として過ごし、毎日体操するなど、活動的な日々を送っている。お手伝いも進んで参加したり、嗜好品を求めて買い物に出かける等、気分転換も図れている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出には毎日、朝・夕の散歩があり、お天気の良い日は送り出している。安全確保のためネームプレートを持ったか確認したり、季節に合った服装で出かけているか声かけしている。買い物やドライブ等や、春・秋にはホーム全体の外出もある。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理し、買い物や受診時等、財布から支払っている方もおられる。無駄遣いしないように家族に声かけしてもらったり、中身のチェックをお願いしている。ホーム管理の方もおられるが、買い物時には自分で支払うように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、それを使って自分で電話できるようにしている。暑中見舞いや年賀状は職員指導により、本人が書き上げるようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や作品を作り、飾っている。落ち着いた空間を作り出している。季節ごとに作品を作り展示している。展示作品については、みんなで協力しあって制作し、和気あいあいとした中で盛り上がりながら完成させている。

ひまわりの家(2号棟)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fや2Fには大きなソファを置き、それぞれが思い思いに過ごせるような居場所を用意している。デッキにもイスを置き、庭を眺めながら会話できるようにしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの家具を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。家族に囲まれた(写真がたくさん飾れている)居室になっている方もおられる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように大きな字の表示があり、自分で行けるようになりやすくしている。廊下や浴室、トイレには手すりがある。危険がないように不要なものは放置せず、安全に移動ができるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	ひまわりの家(3号棟)			

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義と役割を理解した上で独自の理念を作っている。家庭的な雰囲気の中で、理念に基づいた支援が常に行えるように毎日の朝礼で復唱したり、職員や訪問者に分かりやすいように提示している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の公園の草抜きを職員とともに行うなど、地域の一員としての繋がりを大切にしている。近隣のボランティアさんの協力で、ひまわり農園で野菜や果物を作っている。そこで収穫されたものを近隣の方にもおすそ分け等して、交流が図れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の生活で困りごとのある方の情報を地域ボランティアの方から伺い、協力できることで対応している。地域包括支援センターから講師に来ていただき、認知症サポーターについて学ぶ機会を設けた。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議で出された意見、提言は職員に周知し、サービス向上に活かしている。会議には職員代表として順次参加して、そこで話し合われていることがより身近に感じ、共有していけるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者とも行き来する機会があり、相談に乗ってもらったり助言をいただき、利用者のニーズに答えていけるように連携を取っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている職員勉強会には「身体拘束について」を取り入れ、身体拘束とは…をもとに弊害を認識し、周知徹底している。玄関は施錠しておらず、自由に出入りが可能になっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を持ち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がある時にはぜひ参加していきたい。今後、必要となる利用者が出た時に備えて、その必要性を見抜く力を養い、常に対応できるように体制を整えておきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書をもとに家族と一緒に目を通し、声を出して読み上げている。一つ一つ丁寧に説明した上で、疑問点や質問にその都度答えるようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族などの意見、要望は直接出してもらおうように働きかけしている。日頃から「何でも言いやすい」雰囲気を心がけている。出された意見や要望には速やかに反映させている。家族から得られた情報は、直ぐケアに活かせるように取り組んでいる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はケアサービス向上ととらえ、積極的に受け止めて運営に反映するようにしている。出された提案・意見は吸い上げ、より良い運営に活かしている。何でも言いやすい関係ができています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にあり、勤務の継続につながっている。向上心を持って働けるような配慮がなされている。子育て中の職員の応援には得に配慮している。また、資格取得に向けた支援も行っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は職員に情報を出し参加する機会を作っている。参加しやすいように費用面や勤務表等で配慮している。参加者は研修報告の提出により、再度研修内容の理解を深めるようにしている。また、月1回は職員会を兼ねた勉強会を開催している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を持ち、お互いの良い点を取り入れるなど、サービスの質の向上に努めている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネージャーや病院関係者から情報を収集した上で、本人の思い、不安要因を傾聴し受け止め、戸惑うことなくホーム生活が送れるように支援していくことで、信頼関係が築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるかどうか不安に思っている想いを受け止め、誠心誠意サポートさせていただくことを伝え、安心が得られるように何事も隠さず、相談しながら対応して、信頼関係作りに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず一番必要としている支援を理解し、戸惑うことなくホーム生活が送れるように、望ましいと思われる支援を提供できるように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護という視点で日常生活すべてにおいて、利用者個々の得意分野で力を出してもらっている。入居者から学ぶことも多く、「共に過ごし、学び支えあう」関係作りが築けている。「入居者から得られた知恵」が、家族を持つ職員の力にもなっている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出、行事参加などで家族に関わっていただける機会を作るとともに、面会の少ない家族には、ひまわり便りの送付で入居者の状況を報告している。また、電話を入れ、直接話をして関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、親類の方の訪問がある。本人との付き合いが続けられるように温かく迎え入れ、馴染みの関係が途切れないように支援している。居室に案内し、お茶等を用意し、ゆっくりした時間が過ごせるように配慮している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	気の合う入居者同士の関係性に配慮して、無理なく 交流が保てるように席にも気を配っている。
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフ ォローし、相談や支援に努めている	入院中にお見舞いに行き、利用者との関係を断ち切ら ないように努めている。家族の相談にも乗っている。ま た、在宅復帰がかなった利用者にも、その後の様子を 伺いに自宅に訪問し、関係を続けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め ている。意向の出てこない入居者についても本人の心 の奥の思いを探り、何かしてあげれることはないか 意見を出し合っている。また、入居者の生活習慣の 継続には家族の話し合いのもと、本人の意向に沿 った対応をしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴を家族からの聞き取り で把握に努め、入居者の生活に活かせる支援がで きるように努めている。「私の暮らし情報」に要約 して整理しており、それをもとにコミュニケーション を図ったり、生活支援に活かしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で個々の過ごし方や、有する能力、 心身の状態等、今の状況を総合的に把握するよう に努めている。朝、夕の申し送りで情報を共有し ている。変化があれば、その都度話し合い、対応 について協議し、ケアに活かしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	個々にあつた計画作成に努めている。定期的 に話し合い、それぞれの見方、考え方の意見交 換を行い、本人の意向、家族の思いを取り入 れた計画を作成している。大きな変化がある なしに関わらず、3か月ごとに計画書を作成 している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々のケース記録を充実させ、その内容(情報)を共有することで、ケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間や緊急時の急変時には協力病院による柔軟な支援体制がある。緊急時の通院、送迎などは行い、家族の状況等に応じて個々に対応している。また、併設の多機能ホームのレクリエーションに参加することができるなど、多機能性を活かした支援ができている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。近隣の保育園との交流も継続している。また、地域の防災に職員代表者が進んで参加しており、協働体制に関わっている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得している医療機関での診療や往診が適切にされており、受診時の送迎援助も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日常的な医療面での気づきを、早い段階で看護職員に伝えることで早期発見につなげている。看護職員を通して、支援医療機関には毎日FAXで心身の状況の報告ができている。支援医療機関からは定期的に看護師の訪問があり、個々の入居者の健康状態の把握に努めている。状態により適切な受診ができるように支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人に関する情報の提供やケアについて添書を送付し、安心して治療が受けられるように関係づくりを行っている。早期に退院できるように医師との連携に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、支援医療機関や施設責任者、家族などを交えて話し合いの機会を設け、希望に沿えるように体制を整えており、方針を共有している。過去にも数例の実績がある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、急変時の対応マニュアルを整備している。冷静な判断のもと、確実に適切な行動が取れるために、マニュアルに沿った対応ができるように、実践が身につくよう定期的の実施訓練している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行っている。訓練には地域の人々や他の事業所の協力が得られている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格尊重やプライバシーを損ねない対応を徹底するように心がけている。職員同士で注意し、声をかけあっている。居室はノックした上で、入居者の了解を得てから入室する等、周知している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が決定できるように選択肢を提示し声かけしている。外出希望にも沿えるように支援している。意思疎通が困難な方については、表情などを読み取るようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズム作りのため、基本的な1日の流れや日課は作っているが、本人の生活ペースを尊重し、その日の体調を見計らい、その動きや状態に合わせた関わりで、希望に沿って支援している。行事参加についても本人の意向を伺い、尊重している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望して行く理・美容院が特にない方については、ホームに来てくれる美容師を利用している。低料金でボランティア的な面が見られる方で馴染みの関係にあり、髪を整えてもらいながら会話も弾んでいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の希望献立の日は、入居者の希望を取り入れ、献立作り、買い物、切込み等、入居者と一緒に準備して、楽しみながら食事を作っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成している。全員の食事摂取量や水分は、毎食チェック表に記入している。特に水分量の確保には工夫を凝らし、好みに合った飲み物やトロミを付ける等している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じたケアのサポートをしている。声かけにより、見守りや介助にて口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主的にトイレに行くことを支援しているが、衣類や床を汚すなど、本人任せでは不潔になりやすいので、さりげなく声かけしサポートしている。少しの手助けで、排泄の自立が続けられるように支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、繊維質の多い食材や乳製品を利用した食事が提供されている。便通に問題のある入居者には排便状況を把握して、必要に応じて看護師に連絡し、適切な対応を行っている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特殊入浴は週2回行っている。他には手足浴も取り入れている。入浴を拒否することがあっても、体調に問題なければ再度時間をおいてから声かけしている。本人の「入りたい」タイミングに合致するように時間差で声かけして、諦めないことを心がけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを家族より聞き、参考にしている。体調や本人の希望によって、日中少し横になったり休息できる体制を整えている。居室に行かずとも横になれるソファや、和室に誘導することもある。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みができています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、それを活かせるようにホームの生活の中でそれぞれが好きなこと、得意なこと、役割を持ってもらっている。感謝の言葉を伝えることで、自信回復につながるよう支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は周辺の散歩に出かけている。また、買い物、ドライブ、喫茶店、外食に出かけることもある。春、秋にはホーム全体の外出も計画して、家族にも参加していただいている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できている方もおられる。自分で所持しておらずホーム側で管理している方については、支払時にお金は自分から支払うように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した時や、家族からの電話には自分で直接話ができるように支援している。暑中見舞や年賀状は職員の指導を受けながら、家族や友人あてに書き上げ、一緒に投函に行くようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や作品を飾り、落ち着いた空間を作り出している。毎月、入居者、職員と共同で作った作品を展示している。

ひまわりの家(3号棟)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはくつろげるソファを置いてあり、サンデッキもあることで個々にゆったり過ごせている。大きな食卓では縫い物や趣味を楽しんでおられる。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、温かい雰囲気のある居室づくりができています。協力が得られない家族については、職員が工夫して居室づくりをしています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように大きな字の表示があり、自分で行けるように分かりやすくしている。廊下や浴室、トイレには手すりがある。危険がないように不要なものは放置せず、安全に移動ができるように配慮している。